

## 第 27 号

ボランティアの輪を広げよう

— 発 行 —

糸魚川市ボランティアセンター  
糸魚川市ボランティア  
連絡協議会

(糸魚川市社会福祉協議会内)  
新潟県糸魚川市寺町4-3-1  
TEL (025) 552-7700  
FAX (025) 553-1657

# 糸魚川市 ボランティアだより

あなたの力を社会に活かそう

## ボランティアに参加しませんか



## やさしい心に感謝!!



## 県内初の幼老複合施設を見学

青海ボランティア協議会 齋藤 拓雄

7月23日、青海ボラ連の自主研修は3団体のメンバー12名と事務局1名でおこなわれました。研修先は上越市下門前にある「スローライフもんぜん」と「上越つくしの里」でした。スローライフもんぜんは平成19年に開設された新しい介護付き有



料老人ホームです。

施設の特徴は新潟県内初の幼老複合施設として、上越市の認可保育園「門前にこここ保育園」や、介護予防中心デイサービスセンター「エンジョイ倶楽部もんぜん」を併設し、保育園児との日常的な交流を通して、自分の孫のように園児の成長を見守ることができます。浴場も天然温泉を引き入れ、明るいムードの施設でした。青海からも何人か入所されていました。私には高額のため高根の施設であると感じました。

午後からは、障害者の就労継続支援事業所「つくし工房」で製パン作業を見学。受託作業では、オムツたたみ、段ボールの組み立て、施設外作業、農作業、リサイクル作業を行っているとのことでした。上越市でもいろいろと考えてくれていると感激しました。

## 富山四季防災館での体験学習

能生地区ボランティア連絡協議会 楠田 法宣

9月20日、富山市四季防災館での体験学習へと会員20名事務局1名の21名で、秋晴の朝能生事務所を出発。県境のトンネルを抜けると富山平野・立山連峰をながめながら、1時間20分程で到着。職員さんの出迎えを受けて、富山防災シアターで津波と土砂災害をリアルに体験しました。次に地震体験は三次元に動く振動装置で震度5を体験し、悲鳴やら座り込みやら大変な体験でした。

強風災害体験では井波のアイノ風と糸魚川の南風大火の話を行いました。煙体験は居室の火災発生を

想定した演出で、煙の中を避難する体験ができました。風雨流水体験も初めての体験となりました。

昼食はちょっとリッチなランチと懇談の時間となりました。その後富山市ガラス美術館へ。平成27年に開館された富山市の中心市街地で、富山市の文化芸術の拠点として内外装も素晴らしい、ガラス芸術の見学になりました。17時前に能生事務所へ無事到着。県外の研修となりましたが近くて実のある良い体験研修となりました。



## 人と人を結ぶ福祉拠点

糸魚川地区ボランティア連絡協議会 前田 光恵

11月12日、ボラ連自主研修に参加しました。研修先の「社会福祉法人 まるこ福祉会」は、上田市の町中であり、広々とした建物は、旧ジャスコ跡を利用。敷地内には就労支援を行う障害福祉サービス事業所、特別養護老人ホーム、そして地



域の人達が集える「あったか空間きらり」がありました。

就労支援の場では、それぞれの立場を尊重し、できる人ができる事をする、役割りをしっかり果たす姿が、あちらこちらで見られました。

また、詩や絵、ひとことメッセージなどが壁いっぱい貼られ、個性やアイデアを大切にされていました。そんな空間で働く皆さんは、生き生きと自信を持って行動していました。

また、「あったか空間きらり」は、ボランティアの皆さんと協働で運営。誰でも出入り自由なカフェは、ワンコインで食事ができたり、手作りパンやクッキーでティータイムを楽しむ事ができます。大きなホールでは、コンサートや、講演会、趣味の教室などが折りにふれて開催され、地域の方とふれあい、人と人を結ぶ大切な福祉の拠点でした。

## ボランティア講座 「認知症になっても普通に暮らしたい」

— 認知症とともに歩んでいる人からのメッセージ —

いとよ朗読奉仕会 磯野満智子

11月25日にボランティア講座が開催されました。当日は天気に恵まれ、今誰でも関心のあるテーマということで、大勢の参加をいただきました。進行役は認知症の人と家族の会の金子裕美子さん。朗読は、い



とよ朗読奉仕会が担当しました。これまでの主な活動は、市の広報や刊行物を朗読してCD化し、視覚障害のある方へ声の便りを届けるボランティアです。今回のように大勢の方の前での朗読に慣れておらず、引き受けた時はうまくいかず不安でした。事前に打合せ、当日は会員の協力も得て、金子さんとの連携がスムーズにできて良かったと思っております。

金子さんが感銘され、今回テーマにされた本「私からあなたへメッセージ」の著者佐藤雅彦さんは、51才でアルツハイマー病と診断されました。その時、これで自分の人生は終わりだと思ったそうです。その後、工夫次第で一人で生きていけることに気づき、失った機能を嘆くのではなく、残された能力を使って生きていく希望を持たれました。認知症になったからといって、人生をあきらめることはないという前向きな生き方をされています。介護する人には「～してあげる」より「一緒に～しましょう」と、支援する人・支援される人という関係ではなく、一緒に物事を楽しむパートナーを望まれています。

これはどのボランティア活動においても求められる大切なことだと思いました。どんな時でも、必ず誰かと繋がっている社会「絆」の大切さを学びました。

## 福祉講座 「うたごえ喫茶」と「老後の備え」

糸魚川国際交流協会 金子マサエ

12月10日に行われた講座に参加し、ホールいっぱいの参加者に驚きと同時に、講師の方への期待の表れかなと思いました。講師紹介後にステージに登場された縁竹縄さん、軽快なしゃべりに気持ちがどんどん引き込まれていき、歌が始まると、「えっ!」と思う間に、会場は一気にうたごえ喫茶に早変わり。歌が進むにつれ、私の気持ちは若き頃に引き戻され楽しいひとときを過ごさせていただきました。

休憩後の竹縄さんは、高橋正芳さんとなり、本職の行政書士としての話が始まりました。口調はやさしく、滑らかな話の中にも笑いも入り、飽きることなく聞きました。相続に関するクイズには、TVでも話題になっているし、29年度の市民後見人養成講座にも参加していたので、多少の自信はあったつもりが、問題が進むにつれ「うっ!」と迷ってしまいました。結果は満点とはいかず、忘れていたことに気づかされました。

後見人は、弁護士、司法書士、行政書士などの専門家でなければと思っていましたが、任意後見人契約で、家族もなれる「家族信託」について知ることができました。選択肢が増えたことは、今後私たち家族がどんな備えをし、どれを選択すればいいのか話し合うようにと、後押しをしていただいたことに感謝しつつ帰路につきました。



## 南小っ子ボランティア活動紹介 ～南能生小学校～

南能生小学校は、自然や地域の人々とのかかわりを大切にしながら、地域の一員として上南地域がより活性化するように活動を行っています。

### 地域クリーン活動 ～地域での花植え～

地域クリーン活動として、地域での花植えを行いました。「自分たちの住む地域をきれいにしよう」「自分たちの地域の花植えを地域の方と一緒にしよう」という思いをもって取り組みました。

また、「地域を愛する子どもを育てる」活動として、学校運営協議会の取組で高倉地域のフラワーロードでも花植えを行いました。勤労生産的な体験を通し、地域に喜んでいただくことで、「自分たちの活動が地域のためになる」ことを子どもたちは自覚することができました。



### ふれ愛交流会 ～絆を深めて地域を元気に～

榎・藤後地区の松の実会と、溝尾地区の長寿会の皆さんと交流会を行いました。輪投げでは、コツを教えてもらいながら楽しみました。ゲートボールでは、打ち方を教えていただきながら、ゲートを通すゲームに挑戦しました。

老人会の皆さんはとてもお元気で、子どもたちにエネルギーを与えてくださるほど、パワフルでした。年代の違う方と交流することで、社会性が育まれ、子どもたちの心を豊かにすることが出来ました。



### 保育園・特別養護老人ホーム訪問 ～地域の一員として～

5・6年生は、キャリア教育の一環として、おひさま保育園とおおさわの里訪問を行いました。

おひさま保育園では、文化祭に発表した「ライオン・キング」を上演したり、各クラスに入って読み聞かせをしたり、園児とふれ合いをもちました。「小さな子と遊んで、楽しかったー」とにこにこ笑顔で報告してくれた5・6年生たちでした。

また、おおさわの里訪問では、入居者の方に喜んでもらうと歌やゲームなどを計画して出掛けました。入居者の皆さんが喜んでくださる姿に、子どもたちも表情が和らぎ、有意義な交流となりました。どちらも貴重な体験となり、様々な職業や自分の将来について考える機会となりました。



### 編集後記

今年は例年になく雪のない冬、なんとなくほっとするような、また少し不安なような日々です。ボランティアの各団体、サークルの方々も春からの活動計画を考えている時期

かと思います。

少子高齢化、自分が元気であること。その元気が少しでも役に立つことができればうれしく、再び元気をもらえるかなと体力作りをしています。 広報部 谷口